

世界との関わり方

中 二一

私は今まで、テレビなどから流れてくる外国人や黒人を差別するニュースを見ても、あまり深く考えたことはなかった。ただ、

「かわいそうだな。」

と他人事だった。実際、外国人と深く接することがなかったし、自分自身には関係ないと思っていた。しかし、春のアメリカ旅行でその考えは大きく変わった。

私たちの家族は、この春休みにアメリカ旅行をした。アメリカに住む親戚に会い、観光地も回るという旅行だった。私は正直、話す言葉が違うという大きな壁がある中で、コミュニケーションがとれるのかと疑問に思っていて、旅行がとても不安だった。

初め、アメリカで観光しているとき、私はとても怖かった。周りにいる人のほとんどが言葉も文化も違う人たちという状況が、私の人生の中で初めての体験だったからだ。言葉が通じないという

だけで、私は、「やっぱり、アメリカの人とは、大きな壁があるのかな。」と勝手に思ってしまった。しかし、

しかし、旅行をしていくうちに、とても親切な人たちがたくさんいることに気付いた。大きな壁などなかったのだ。

おじの奥さんはスペイン人であるが、私たちがアメリカに来ることを喜んで迎え入れてくれて、みんなの食事の好みなども気遣ってくれた。朝食に、日本食を出してくれたのだ。初対面の私たちのために、スーパで日本食の材料をそろえる姿を想像すると、そこに言葉の壁はなかった。また、観光ツアーの案内をしてくれた現地の人とは、とても親切にいろいろなことを教えてくれた。私は途中で、体調が悪くなってしまうのだが、コースを変更するなど私たちの要望を優しく受け入れてくれた。そんな中で私は、「言葉が違ってても、これほど親切にしてくれる人がこんなにもいるんだな。」と感じて旅行を終えた。

そして、私は日本に帰国し、空港にいる外国人を見たとき、ふと、以前テレビで見た、日本に来た外国人を差別するというニュースを思い出した。

気になって調べてみると、外国人に対する差別から生まれた問題が多数あった。アパートやマンションへの入居を断られたり、特に驚いたのは、日本語が話せないというだけで医療機関の受診を断られたりするというものだった。もしかしたら、今はもう改善されているかもしれない。でも、外国人に対する差別意識は、すぐになくなることではないと思う。もし日本に来て、言葉が通じず、不安な中で日本人の偏見によって差別された外国人がいたら、どう思うだろう。きっと日本には来たくなくなるだろうし、その人の中の日本人へのイメージはとても悪いものになるだろう。でも、私も実際、外国人に対して偏見をもっていたし、差別的な行動をとってしまったこともある。きっと外国人への差別は、私たちにとても身近な問題なのだ。しかし、国籍や文化が違ってもすべての人が人権をもっていることに違いはない。だからもっと、外国人への誤解や偏見をなくしていかなければならない。

私は、アメリカで多くのアメリカ人と接し、親切な人たちに出会った。たぶん日本にも、外国人に対して何の偏見もなく優しく接している日本人

がたくさんいるはずだ。そんな人たちをもっと増やしていかなければならない。そのためには、お互いが文化に違いのあることを理解し、さらにはそれを尊重していく必要がある。だから私ももっと外国人や外国の文化との交流をしていきたい。

私たちの住む日本は海に囲まれている。地球には多くの陸があり国があり、さまざまな人種の人たちが暮らしていることを忘れてしまいがちだ。近い国同士での紛争も絶えず続いている。

しかし、人は誰でも、自分の隣の人を思いやりたり、遠くにいる人に対し温かい気持ちをもったりすることができるといえる。いつか国籍や言語の壁がなくなり、誰もがどの国でも快適に過ごせる世の中にするために、今この瞬間から私たち一人一人が、小さなことでも世界との関わりを増やしていくことが大切だと思う。